



OSAKA UNIVERSITY
OF ECONOMICS AND LAW
大阪経済法科大学

LIBERA

volume

76

2009

特集

経済学部で
学ぶ

経済学部専門教育科目「マクロ経済学」を受講する学生



特集

経済学部で学ぶ

経済学部で何を学ぶのか

わが国は現在、世界規模の不況の真つただ中にあります。この影響は社会のあらゆる場面に現れていますが、例えば、来春卒業予定の大学生の就職内定率が史上3番目の低さ、下げ幅は過去最大を記録するなど、皆さんの生活にも大きく影を落としています。この状況をただ傍観しているだけでは、厳しい時代を乗り越えることなど到底できません。

では、このような状況にどのように対応すべきなのでしょう？ 皆さんは大学生ですから、「何を学んだか」、さらにその結果として「何ができるのか」が社会的評価の対象となります。したがって、この点に注意を払い、社会にアピールできるように学修をすすめることが最も重要であると言えます。

漫然と各科目を履修し、所定の単位を取得しただけでは、系統的な知識は身につかず、結局「何を学んだか」をアピールできない結果になりかねません。

今号では、2年次から選択できる経済学部の4コースで、実際に学んでいる学生たちの声を紹介しながら、学びから得た成果や自信、今後の目標などについて取り上げます。また、各コースを概観し、段階的・系統的な学びを通じて、何を学ぶことができ、何ができるようになるのかを再確認してみたいと思います。

大阪経済法科大学学報 [リベラ]

LIBERA
volume 76/2009



2009年12月25日発行
【編集】
大阪経済法科大学事務局庶務課
〒581-8511
大阪府八尾市楽音寺6丁目10番
TEL 072・941・8211
FAX 072・941・4426

<http://www.keiho-u.ac.jp/>

CONTENTS

3 特集 経済学部で学ぶ

経済学部で何を学ぶのか
コースでの学び



- 10 [スチューデントパワー]
第38回経法祭
『CHAOS -Revolution-』開催
2009年度後期(秋季)課外活動速報



- 12 [経法タイムス]
いきいき八尾環境フェスティバル2009
将棋・囲碁まつり開催
坪井教養部客員教授が秋の叙勲受章
テニスコートに照明設備設置 他



- 15 [キャリアアップステーション]
厳しい就職戦線、真剣な学びの中に光あり
試練を乗り越え、進路を決定! 他

- 18 [国際交流通信]
海外留学体験記
秋学期交換留学生認証式を挙行
小学校・高校で国際交流活動 他



- 20 [元気いっぱい!躍動する経法生]
西堀 裕紀さん(法学部2年生)

ビジネスコース

経営は現実から学べ。

創造的なビジネス実務家を目指す。

と同時に、社会のあらゆる事象に関する幅広い知識が要求されることとなります。これらを系統的に学ぶのがビジネスコースです。

ビジネスの現場では、知識だけでなく行動力・実践能力が要求されます。ビジネスコースに設置されている「経営実践」などの実践型授業では、実際の経営活動を体験することにより、これらの能力を高めることができます。

このような参加型の授業、アクティブ・ラーニングから、学生は、何を学べることできたのでしょうか。あわせて担当教員からのメッセージを紹介します。

受講学生に聞く

理論と実践の学びを通じて、実社会で役立つビジネス知識を身につけることができました。

小原 隆裕さん
(経済学部3年生)



自分の将来の進路を考えた時に、経営者になりたいという考えがあったので、経営の基礎やマネジメントに必要な知識を学べるビジネスコースを選択しました。また、コースに示されていた主な進路が、現実的でイメージしやすかったのと、コースに設置されていた科目が、自分の興味のあるものが多かったことも選択理由になりました。

「経営実践」の授業では、河内山本駅にある商店街に店舗を出店し、そこでの売り上げの一部を八尾市社会福祉協議会などに寄付するという活動に参加しました。この授業では、まずどのような店を出したいのか？、店を出すのにどれぐらいの資金が必要か？、客層はどの年代をターゲットにするのか？、などをみんなで考え、話し合うことで、経営に必要な知識や考え方を深めることができました。同時に、一緒に授業に参加した学生やお客さんとのやり取りを通じて、「コミュニケーション」の重要性についても学ぶことができました。また、このコースでの学びを通じて、小売・販売業に興味を持つようになり、販売士検定試験2級に挑戦し、合格することができました。卒業ま



空き店舗を利用して接客を行う学生たち(「経営実践」)

で、会計の資格も取得したいと思っています。

卒業後は、自分の希望である建築業界などで総合営業職に就き、大学で学んだビジネス知識やコミュニケーション能力を生かしていきたいと考えています。また将来的には、経営者になりたいという目標もあるので、建築士などの難関資格取得にも挑戦し、人としての幅、仕事の幅を広げていきたいと思っています。

担当教員に聞く

自ら戦略を立案できる、創造的な実務家を養成したい。

深見 環 経済学部准教授
博士(商学)

「溝を掘るのに2人で2日かかる」とすれば、4人だと何日かかる？」

この問題は、有名な経営学者P・Fドラッガーが、彼の著書のなかで引用する小学生の問題です。正しい答えは、1日となりますが、彼は、これを「永久」あるいは「4日」としました。なぜなら、実際の経営活動では、4人それぞれの能力、性格、相性などの問題や仕事の魅力度、賃金の適正さなどに関しても考えなければならないからです。このように「経営」には、机上の



深見 環 経済学部准教授

理論では、解決できない様々な問題が多く潜んでいます。経営学を学ぶ時に重要なのは、「実際の経営の場面で、どのように考え行動するか」ということです。変化の著しい現代社会だからこそ、想像力や決断力、応用力、判断力などの総合的な能力が強く求められるのです。

その一方で現代企業は、企業哲学や企業倫理を確実に実践し、企業を取り巻く様々なステークホルダーとの信頼関係をいかに構築していくかが重要な課題になっています。企業の不祥事が相次ぐ昨今では、環境への配慮や法令遵守、製品の安全性などの課題に対して、公共の利益という立場で行動し、活躍できる人材が不可欠となっているのです。ビジネスコースで学ぶことで、経営者や企業人としてのモラル、社会に貢献していく心構えや行動の規範も身につけてもらいたいと思います。

現代の社会は、即戦力が求められる時代になっています。ビジネスコースで多角的・実践的に学び、「これだけはだれにも負けない」という切り札を豊かな人間性とともに身につけて欲しいと思います。

会計ファイナンスコース

金融危機を乗り越える力

企業を支える会計の専門職を目指す。

企業活動は、様々な側面から観察することが出来ます。資本主義社会においては、「カネ」資金の側面からこれを観察することが最も一般的であり、かつ重視されます。これは、企業活動が資金によって支えられており、同時に、企業活動の中心目的である利益追求が資金の増殖を意図したものであるからです。企業における「カネ」にまつわる活動を、記録・報告の観点から深く学修するとともに、調達や運用の理論的・実践的学修

を行なうのが会計ファイナンスコースです。

グローバル化した現代社会では、企業活動もボラレス化しており、会計・ファイナンスの対象領域も大きく広がっています。例えば会計の領域では、わが国にも国際会計基準の導入が予定されています。このような先端の知識を身につけることは、次代を生きるビジネスパーソンとして必須の素養となりつつあるのです。

将来、公認会計士・税理士を目指す学生には、「会計専門職特別プログラム」が用意されておりSコースの会計職講座との連携によって、高度な会計理論の学修と実践的トレーニングが受けられます。

それでは、明確な目的意識のもと、会計職に向けて学修を続ける学生の声と担当教員のアドバイスを紹介します。



八尾税務署の協力で開催している「租税教室」



コンピュータの基礎を学ぶ
「コンピュータリテラシー」

ITキャリアコース

情報を制する者が、市場を制する

ユビキタス社会で活躍する人材になる。

現代社会を特徴付けるキーワードのひとつに、「情報化」があります。この情報化はコンピュータ企業だけでなく、通信・アミューズメントなどの分野にビジネスチャンスを生み出し、いくつもの新しい産業分野として成長させるまじになっていきます。このような情報産業に身を置くビジネスパーソンだけでなく、あらゆるビジネスシーンでITスキルが必須となっており、これらの知識・技能を系統的に学修することができるのがITキャリアコースです。

本コースでは、ITスキルだけではなく、経済・経営分野の知識を融合することによって、情報産業の現場で必要とされる新しいビジネスの開拓能力や問題解決能力を身につけることができます。さらに講義とリンクして「ITパスポート」や基本情報技術者などの資格を段階的に取得することができ、自身のIT技能の客観的証明とすることがができます。

このようなコースでの学びを資格取得とキャリア形成へと結びつけている学生の姿と担当教員からのメッセージを紹介します。

受講学生に聞く
ITスキルと専門知識を身につけ、幅広い分野で活躍したいと思っています。
山田 直毅さん
(経済学部3年生)

大学に入学するまでは、パソコンについてあまり詳しくなかったのですが、1年次に履修した「コンピュータリテラシー」や「Webデザイン」を通じて、情報系の科目に興味を持つようになり、基礎からスタートした自分でも、頑張ればITスキルを身につけることができそうだという手応えを感じ、このコースを選びました。

まず「ワープロ実践」や「表計算実践」では基本的なソフトを使いこなせるようになり、すぐ実践に生かせると思いました。一から学び始めたので、最初は授業についていくのも精一杯でしたが、パ



ワーポイントなどを使用してポイントを分かりやすく説明してくれるので、理解しやすく助かりました。そうしてコースの科目を順に履修しながら、情報関連の資格にも挑戦し、CIWファンデーション試験に合格し、「情報科学演習B」で集中した学習をした結果、初級シスアドにも1回で合格することができました。「キャリア開発Ⅰ・Ⅱ」の受講と初級シスアド資格をプラスして、YESプログラムでの厚生労働大臣名の能力修得証明書を得て、就職活動などにも活用したいと考えています。

卒業後の進路は、IT業界に限らず広くスタンスを取って、自分が活躍できる分野を見つけていきたいと思っています。また、現在とリかかっている卒業論文では、スポーツとITから見た地域経済について取りまとめる予定です。ITを活用してプロスポーツの経済効果がどのように高まるかということとは、可能性のあるテーマであると考えているので、4年間の学習成果として、しっかりといいものを残すことができたいと考えています。

受講学生に聞く

授業と特修講座の学びで、税理士を目指しています。

伊丸 綾さん
(経済学部2年生)



大学に入学する前から、税理士という職業、特に税理士が行う業務(税務代理、税務書類の作成、税務相談等)に関心があり、1年次から特修講座の会計職講座を受講してきました。2年次のコース選択時も迷うことなく、会計ファイナンスコースを選択しました。

会計ファイナンスコースでは、会計基準の基本的な内容や法人税の申告調整と税効果会計に関する実務について学ぶ「会計学特論」や税務会計の中心領域である法人所得税務会計の体系と計算技術を学習する「税務会計論」、また実務で使用されている会計ソフトを利用し、コンピュータによる簿記・会計の基本的な知識と活用方法に

担当教員に聞く
実体経済における金融、投資、資産運用に関する専門知識を身につけ、高度専門職を目指してください。

竹中 徹 経済学部准教授

2008年秋から始まった世界同時不況のプロセスを観察すると、現在の世界経済は、良くも悪くも金融・ファイナンス主導型経済となっていることがわかります。したがって、金融・ファイナンスの知識は、我々が現代社会を生きていく上で必要不可欠なものであり、会計ファイナンスコースの学びでは、これらの知識を獲得することに主眼を置いています。

学生の皆さんは、卒業後は就職して企業社会で生きていかなければなりません。そこでは、企業をめぐるお金の動きに敏感でなければライバルに大きく差をつけられず、自らの会社は安全か? 同業他社と比べてどうか? ビジネスの現場で要求されるこのような判断は、会計に関する知識があつてはじめて正確に行なうことができるようになります。また、社会保障システムが揺らいでいる現在、計画性と余裕をもって長い人生を歩んでいくためには、適切な個人資産の運用や保険商品の選定・加入などを自己責任によって行なっていくなければなりません。このとき、預貯金・保険・金融商品などに関



竹中 徹 経済学部准教授

する知識が不可欠となりますが、ファイナンスを学ぶことにより、これらに関する知識を得ることがができます。

さらに、会計ファイナンスコースでは、講義科目と資格講座、特修講座を組み合わせることで、資格取得に直結した学習を行なうことができます。例えば「ファイナンシャル・プランニング」の内容は、ファイナンシャル・プランニング技能検定試験の受験に直結しています。他にも電子会計実務検定試験や公認会計士、税理士といった難関資格取得につながる講義科目も多数あります。会計ファイナンスコースでの学びを通じて、これらの資格取得にも是非チャレンジしてください。

担当教員に聞く

**実践的な情報分析力、
活用力を身につけた
ＩＴ人材を育てたい。**

能塚 正義 経済学部教授

インターネットをはじめとする
ＩＴの発展により、いつでも、ど
こからでも情報インフラにアクセ
スできるユビキタス・ネットワー
ク社会が到来しています。このよ
うな状況下、企業が直面するビジ
ネス環境は急変し、規模の拡大、
スピードへの対応、多様性への順
応が必要条件となりつつあります。
金融、流通、製造業などのあらゆ
る産業分野では、ウェブ活用によ
る新規ビジネス開拓や、グローバ
ルに展開する企業システムの全体
最適管理など、ＩＴは企業競争力の
主要な源泉となっています。特に
新たなビジネスモデルにおける
ＩＴ活用は決定的に重要で、企業
内の各種プロセスについての知識
とＩＴに関する知識やスキルを融
合し、必要とされるビジネスソリ
ューションを提案できるような
ＩＴ人材が、強く求められています。
ＩＴキャリアコースでは、ユビキ
タス・ネットワーク社会において、

ＩＴ関連企業だけでなく、社会で
幅広く活躍できるような人材の育
成を目指しています。

ＩＴキャリアコースは、初年次
からの全学共通教育科目と連動し
ていて、一貫した教育カリキュラ
ムを提供し、そこで習得したＩＴ
に関する知識やスキルを用いて、
ＩＴを実践的に活用する力を身
につけます。また、情報系の国家
資格や民間資格の取得につながる
科目群も充実しています。

社会で活躍するために求められ
るものは、学校で学んだ知識やス
キル以上に、それらを習得する過
程で培われたチャレンジする力や
考える力、人とコミュニケーション
のできる力です。ＩＴキャリアコー
スでは、実践に重きを置いた教育
を通して、そういった力を育んで
いきます。コースでの学びの中で
キャリアの可能性を広げるとも
に、自己実現を果たしてください。



能塚正義 経済学部教授

総合経済コース

デフレ経済の脱出方法は？

経済理論で時代の潮流を読み解く。

日本は、物価の下落が続くデフ
レ（デフレーション）状況にあり、
不況が長期化する恐れがあると指
摘されています。それでは、現在
の金融不況のきっかけは何だった
のでしょうか？また、その波及プロ
セスはどのようなものだったのだ
でしょうか？さらに、正常化へ向け
た経済政策としてはどのような方
策が有効なのでしょう？このよ

うな問いに答えていくためには、
経済史・経済理論などに関する知
識と経済分析力が必要となります。
これらを系統的学修によって獲得
することができるのが総合経済コ
ースです。

本コースで身につけることがで
きる知識・能力は、公務員をはじ
めとする公共性の高い分野で要求
される職業基礎力であり、採用試
験でも数多く出題されることとな
ります。したがって、本コースで
の学びは、公務員採用試験等の対
策として、生かすことができます。
高度なミクロ・マクロ経済理論
の学修を希望する学生には、「ＥＲＥ
ミクロ・マクロ特別プログラム」
が用意されています。このプログ
ラムでは、ＥＲＥ（経済学検定試験）
の対策を行い、ＥＲＥでの高得点獲
得を目指します。



特別プログラムとして開講している
「マクロ経済学演習」

受講学生に聞く

**経済の仕組みを知り、
様々な社会問題に関心を
持つようになりました。**

大内 一賛さん

（経済学部4年生）
就職決定先／小浦石油株式会社



入学当初から、経済の仕組みに
ついて興味があり、大学での学修
を通じて、経済問題を自ら判断・
分析できるようになりたいと考え
ていました。また、バレーボール
部の先輩から経済の仕組みについ
て幅広く勉強したいなら、総合経
済コースがいいというアドバイ
スを受けたので、このコースを選
びました。

1年次の授業では、「基礎経済学」
などの入門科目を学ぶ過程で、経
済学という学問について徐々に理
解することができました。2年次
以降は先の就職のことも意識しな
がら、自分にとって本当に必要な

担当教員に聞く

**多角的な視点から
経済問題を考え、
問題解決能力を養う。**

東郷 久 経済学部教授

経済学博士

総合経済コースは、日本と世界
をめぐる様々な経済問題を対象に

科目を履修するように心がけてい
ました。そんな中で履修した「社
会政策総論」では、社会政策の概
念やその背景にある社会問題につ
いて学ぶことができ、ニュースや
新聞で報道されている社会問題に
についても関心を持つてみるよう
になりました。また、「計量経済学」
の授業では、経済分析や経済予測
の考え方、その計算方法などが取
り上げられ、大変参考になりました。
4年間の学びを通じて、現代社
会が抱える様々な問題や経済の仕
組みについて学ぶことができた

と同時に、また経済学的視点から物
事を分析する力がついたと感じて
います。卒業後は、大学で学んだ
知識やクラブで培った経験などを
礎に、社会に出て思う存分力を発
揮していきたいと思っています。

して、経済生活の現状と問題、ま
たその解決方向を考えるために設
定されています。日本の経済は世
界の経済のなかで動いており、労
働の問題を考えるためには企業の
仕組みとともに政府の関与のあり
方を検討することも必要です。また、
現在、環境問題が深刻化していま
すが、これはこれまでの成長至上
主義という経済システムからの転
換が求められていることを示して
います。

経済問題を考える場合、法学の
勉学も必要です。経済学も法学も
人間生活を豊かにするためにつく
られてきた社会に関する見方の体
系です。人間生活にとって、経済
は生活の土台ですが、法学は経済
生活をめぐるルールのあり方を考
えるものであり、雇用が増えても
働く者の人権が損なわれては豊か
な生活だとは言えません。総合経
済コースは、広い視野をもって経
済問題を検討しようとするところ
に特徴があります。

総合経済コースの学びを通じて、
経済問題に対する広い視野を獲得
することが可能となります。社会
が曲がり角に直面している現在、
皆さんが将来どのような仕事に就

こうとも、広い視野を礎に、前向
きで柔軟に発想できるということ
が個人、企業、地域、社会、ある
いは海外で必要となる一能力だと
言えます。コースにある履修モデ
ルを活用し、関連する資格取得も
含め、学生の皆さんが大いに勉学
されることを期待します。

総合経済コースには、5つの履修
モデルを設けており、人権・福祉
モデルは、不安定就業問題などを
通して経済のあり方を、地域振興
モデルは、まちづくりや地域づく
りを検討しながら生活の豊かさを
考えます。また、環境経済モデル
では、経済活動と環境問題の関
係を学び、アジア経済モデルでは、
アジア諸国の現状、先進諸国との
関係を検討します。公共政策モデ
ルは、市場に作用する政府や地方
自治体の経済政策について理解を
深めることができます。



東郷 久 経済学部教授

2009年度後期（秋季）課外活動速報

各体育会に所属するクラブのリーグ戦や選手権大会などが、全国各地で繰り広げられ、本学学生たちが活躍しています。

他にも、文化会所属クラブによる、地域貢献活動も活発に行われています。

テコンドー部

全日本学生テコンドー選手権大会で総合優勝

10月11日（日）から20日（火）にデンマーク（コペンハーゲン）で開催された世界テコンドー選手権大会に、小林穂奈美（経済学部1年生）選手が出場し、惜しくも2回戦で敗退しました。

11月21日（土）に東京で開催された第3回全日本学生テコンドー選手権大会に10名の選手が出場し、見事総合優勝（団体）を果たしました。

個人競技成績は、右記のとおりです。



（写真左から）

中澤 度栄（経済学部2年）	男子-80kg級	優勝
姜 東澈（経済学部3年）	男子-58kg級	優勝 ※最優秀選手賞（男子）
太田 慎平（法学部3年）	男子-54kg級	3位
石之 大貴（法学部4年）	男子-63kg級	優勝
木下 菜摘（経済学部3年）	女子-49kg級	優勝 ※最優秀選手賞（女子）
芝田 健太（経済学部1年）	男子-68kg級	優勝
藤脇 若菜（法学部3年）	女子-57kg級	3位

卓球部

10月8日（木）から11日（日）に横浜文化体育館で開催された第76回全日本学生卓球選手権大会に、本学卓球部から7名の選手が出場しましたが、健闘むなしく、シングルスでは下之段志保（経済学部3年生）選手が3回戦敗退、ダブルスでは下之段・景山真衣（経済学部2年生）選手ペアが、2回戦敗退となりました。

空手道部

10月18日（日）、2010年に開催される第7回世界学生空手道選手権大会（モンテネグロ）二次選考会で、梅木香奈（法学部3年生）選手が見事勝利し、来春の最終選考会への出場権を獲得しました。

囲碁部

10月31日（土）、奈良県児童・生徒全国大会県代表選手10数名を本学に迎え、囲碁部学生との強化練習会を開催しました。この練習会は、県下の学校囲碁指導者からの要請により実現したもので、地域・社会貢献活動の一環として開催されたものです。

サッカー部

関西学生リーグ（後期・3部Aブロック）の最終節が11月15日（日）に行われ、滋賀大学教育学部に惜しくも敗戦し、最終順位5位（5勝3敗2分）が確定しました。



今回のテーマ『CHAOS』は、古典ギリシア語が語源で「混沌・混乱・無秩序」という意味を表し、ギリシア神話に登場する原初神のことを言います。また、別の解釈として「ほんのわずかな初期条件の違いが予想もつかないほど大きく違った結果を生む現象」という意味もあり、これまでの経法祭の良い部分を残しつつ、改善できるものは徹底的に改善し、新しく生まれ変わった経法祭を創造していこうという意味で設定されました。

前夜祭を含む3日間で開催された今年の経法祭は、毎年恒例となったダンスコンテストや女装コンテスト、フードファイトやお笑い芸人によるライブイベント、また福岡政行氏を講師に迎えた学術講演会「激動する政局の読み方」など、多彩な内容で開催されました。最終日には、4年ぶりとなる打ち上げ花火が夜空に舞い上がり、学生たちの秋の一大イベントは、無事成功裡に幕を閉じました。



姉妹校の大阪情報コンピュータ専門学校生が制作した対戦型ゲームを楽しむ参加者



福岡政行氏による学術講演会



地元の小学生と餅つきを楽しむ校友会役員



開会式で鏡割りを行う藤本学長（左から2人目）と学生役員

第38回
経法祭
「CHAOS-Revolution」
を開催!

2009年春から経法祭実行委員会を中心に準備されてきた第38回経法祭『CHAOS-Revolution-』が、11月6日（金）から3日間、本学キャンパスで盛大に開催され、昨年を大きく上回る約4,600名の来場者がありました。

学術講演会・公開講演会を開催



講演を行う仙波氏

10月13日(火)、22日(木)の2日間、警察見張番・愛媛代表の仙波敏郎氏を講師に迎え、「現職警官裏金 内部告発」が開催されました。

大学演習(1年生演習クラス)の合同授業として開催された今回の講演会では、同氏の愛媛県警時代に行った内部告発に至るまでの経緯やその内容、警察の不正問題などについて、公益追求という観点から、お話をいただきました。

講演会に参加した多くの学

生たちは、講師の毅然とした姿勢、迫力ある講演内容に真剣な表情で聞き入っていました。.....

10月28日(水)、アジア研究所主催による公開講演会「地域における在日外国人との共生」が開催され、学生・教職員、八尾市民を含め約50名の参加者が聴講に訪れました。

今回の講演会には、一橋大学名誉教授(経済学)で、在日外国人問題の研究や活動で著名な田中宏氏を講師に迎え、1998年5月に東海TVで放映された「日系ブラジル少年が殺された」を観賞した後、過去の新聞記事等を資料に日本政府の在日外国人施策の歴史や諸外国の施策との相違点、また、今後の日本の課題や進むべき方向性について講演が行われました。

「いきいき八尾環境フェスティバル2009」

10月18日(日)、本学キャンパ

スで「いきいき八尾環境フェスティバル2009」が開催され、約1500名の市民、関係者が参加しました。

この環境フェスティバルは、今年で5年目を迎え、環境先進都市を目指す地元八尾市の企業や市民、教育機関、八尾市の行政などで結成された協議会「環境アニメイテッドやお」主催のもと、本学と八尾市の共催で開催されてきたものです。



光発電実験、食文化体験、また「生物多様性保全の推進と地域経済」と題した環境シンポジウム(豊岡市のコウノトリの取組事例の紹介)など、多彩な環境イベントが準備され、催されました。

経法祭将棋まつり・囲碁まつりを開催



11月7日(土)・8日(日)の2日間、経法祭企画のイベントとして、経法祭将棋まつり・囲碁まつりが開催されました。

今回の取組はともに、生活文化普及支援事業のひとつとして、文化庁と社団法人日本

名誉教授懇談会を開催

将棋連盟八尾支部、財団法人日本棋院の主催のもと、本学文化会将棋部・囲碁部の協力により実現したものです。

11月7日(土)、経法祭の開催にあわせて、本学名誉教授懇談会が本部棟で開催されました。

当日は、藤本学長から「新学生ホール棟(仮称)」「建設や姉妹校学生交流セミナー等の取組状況について、また就職・進路、資格取得実績等の大学の近況について報告が行われました。

その後の昼食会では、名誉教授の先生方から、自身の近況などについてお話しいただき、和やかな雰囲気の中で懇談が行われました。



写真前列左から東山、谷本、藤田名誉教授、藤本学長、沢名誉教授

●名誉教授出席者(学位/歴任役職)

藤田 整 名誉教授(社会学博士/学長、経済学部長)
谷本治三郎 名誉教授(法学部長、情報科学センター長)
沢 勲 名誉教授(工学博士/学長補佐、教養部長 他)
東山 栄次 名誉教授(経済学部長)

坪井二字教養部客員教授 旭日重光章を受章

11月3日(火)、文化の日に行われた秋の叙勲において、坪井二字教養部客員教授が旭日重光章を受章されました。

今回の叙勲は、1987年の参議院議員初当選以降、沖縄及び北方問題に関する特別委員会委員長、通商産業政務次官、国土政務次官等の要職を歴任された職務に対する功労や地方自治の発展、また本学客員教授として学生の教育と後進指導への貢献が認められ授与されたものです。



ゼミ合宿で国会議事堂を訪れる坪井客員教授とゼミ生

熊谷貞俊教養部客員教授 退任の挨拶で本学を訪問

9月14日(水)、第45回衆議院議員総選挙に当選された熊谷貞俊元教養部客員教授が、退任の挨拶のため本学を訪れました。同氏は、2008年4月から、主に情報分野の科目を担当されました。



退任挨拶に訪れた熊谷氏(右)と藤本学長(左)

テニスコートに 照明設備を設置



10月28日(水)、本部棟北側にあるテニスコート(2面)に、夜間でも安全・快適に練習できる照明設備(4基)が設置されました。

これにより、いまで秋から冬にかけての練習時間が限られていたテニス部の学生たちにとっては、時間を気にせず日々の練習に取り組むことができるようになりました。

平成21年度全日本卓球 選手権大会で優勝

体育会テニス部主将
渡利竜次さん(経済学部3年生)

「毎年、この時期の練習は時間を早く切り上げたり、オフにすることが多かったのですが、いまは照明のおかげで充実した練習ができています。来年の公式戦では、この練習の成果を発揮したいと思います。」



写真提供:卓球王国

団体献血を実施

11月5日(木)・10日(火)の2日間、本学キャンパス図書館前で、団体献血が実施されました。

この団体献血は、社会貢献活動の一環として、大阪府赤十字血液センターの協力により、毎年春と秋の2回に分けて実施されています。今回は、2日間で計89名の学生の協力がありました。

2009年度 春学期末卒業式を举行

9月25日(金)、2009年度春学期末卒業式が举行され、経済学部、法学部あわせて29名の卒業生が本学を旅立ちました。



式では、藤本学長から一人ひとりに学位記が授与された後、これから新たな一歩を踏み出す卒業生たちに、期待と励ましの言葉が述べられました。今回卒業を迎えた29名の卒業生が、この日の喜びを忘れず、本学で学んだことを礎に社会で活躍されることを心より祈念いたします。

厳しい就職戦線、 真剣な学びの中に光あり

しっかり準備して、希望進路を実現

昨今の経済不況の中、「大学を卒業しても就職できるのか」と不安に思っている人もいることでしょう。しかしそのようなことはありません。しっかり準備をすれば、希望する進路を実現することができます。

不景気の中に光あり 不景気の中から新しい 産業や企業が生まれる

「電気自動車向け新工場G Sユアサ、500億円投資」、「眼鏡大手、中国で出店加速三城3倍、愛眼は50店目指す」、「ワコール、スポーツ衣料本格参入」、「LED新たな商機、中小メーカー目前技術活用」。以上は日本経済新聞の最近(11月)の記事です。不景気だといっても、技術革新が止まるわけではありません。いやむしろ不景気だからこそ、新しい技術や製品の開発が強く促されるのです。不景気の中から新しい産業や企業が成長してきます。時代の動きを良く観察して、自分の進路を考えましよう。

真剣な学びの中に光あり 真剣な学びで就職力を 大きく育てる

目指す進路を実現するには、力を蓄えることが必要です。SP(筆記試験)で良い成績をとり、面接でしっかり自己アピールできなければなりません。ゼミで学んだことや得意科目を熱く語れる学生、クラブ活動など勉強以外でも打ち込んだことがある学生、挨拶がしっかりでき、何事にも積極的に取り組める学生、希望する仕事に関連する資格を持っている学生。このような学生を企業は求めています。毎日の大学生活の中で、学びに真剣に取り組ましよう。また広く様々な経験を積み重ねることも必要です。面接では、メモなしで、何時間でも自分を熱く語れるようになることを目指しましよう。

就職指導部の中に光あり 就職指導部は あなたを待っています

就職活動では、履歴書やエントリーシート作成、面接の心構え、相手を感じさせる自己アピールのやり方など、いくつかのポイントがあります。就職指導部は、このようなポイントについて丁寧に指導します。また、「内定を2つ貰ったがどうすればよいか」などの具体的な相談にも応じます。

就職指導部は皆さんの就職活動をすべての領域にまたがって支援します。長年の経験を積んだスタッフが皆さんをお待ちしています。



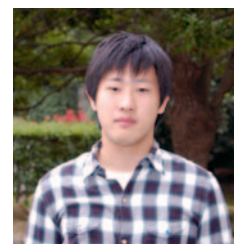
12月に体育館で実施された合同会社説明会



試練を乗り越え、進路を決定！

2009年、学生を取り巻く雇用情勢は、昨年来の急激な景気後退により悪化傾向にあります。今回は、そのような厳しい雇用情報の中、自らの力で就職戦線を勝ち抜き、内定を得た学生たちに、就職活動での自身の体験などについて語っていただきました。

面接時の対応力向上が、内定獲得への近道



藤井直人さん
(法学部4年生)
就職決定先:
西日本旅客鉄道(株)

就職活動中は、会社説明会があればできるだけ多く参加し、その企業についての情報を収集し、そこで得たものを志望動機などに生かしていました。説明会に参加しないと選考に進めない企業もあったので、時間のある限り説明会には参加するように心がけていました。40社くらいの企業には、訪問したと思います。

また、就職活動では、自己分析や企業研究も大切だと感じましたが、やはり一

番大事なのは面接での対応力だと思いました。面接の場で緊張してしまうと声も小さくなり、いい自己PRや志望動機を言えても相手に伝わらなかつたらまったく意味がありません。自分の場合は、友だち同士で模擬面接をやったり学校での模擬面接などに参加していたので、本番で緊張することはほとんどありませんでした。面接では、緊張しても自分のことやこの会社で働きたいという熱意をしっかりと自分の言葉で伝えることが重要だと思います。

大学卒業後、自分が入社する会社はひとつだけです。会社のイメージや見かけだけでなく、仕事の内容や中身を見て、この会社で働きたいと思える一社を見つけてください。

自分の目で確かめて、希望の進路を実現



大城 香さん
(経済学部4年生)
就職決定先:
サザンツーリスト(株)

昨年のインターンシップ参加時から、就職活動を意識して動いていたので、10月くらいには就職支援サイトでたくさん企業のエントリーをしたり、企業の情報収集を始めていました。訪問企業は、業種を決めずに動いていたので合同会社説明会もあわせると約60から70社、エントリーシートは30から40社くらいに出したと思います。私たちの学年も就職状況が厳しいと言われていたため、できるだけ多くの会社の話を直接聞き、自分に合った会社を探りたいという気持ちで動いていました。

私は、SPIにあまり力を入れずに就職活動をしていたので、志望していた会社の筆記テストで落とされた時は、もう少し力を入れてやっておけばよかったと悔しい思いをしました。また、面接でも他大学の学生に圧倒され、自分のことを上手く伝えることができなかった時は、もっと事前にしっかりと準備ができたのではないかと後悔もしました。そんないろんな経験をしたからこそ、いまの自分があり、厳しい就職状況の中でも内定を勝ち取ることができたと思っています。在学生の皆さんも、新卒で就職活動を

できるチャンスを逃さず、ひとつでも多くの会社を自分の目で見て確かめ、希望

進路の実現に向けて頑張ってください。

諦めずに最後まで挑戦することが、自己実現の第一歩



白井孝典さん
(法学部4年生)
就職決定先:
山口宇部農業協同組合

自分自身、就職活動をする上で一番気をつけていたのは、モチベーションを落とさずに就職活動を続けるということ

した。

就職活動をはじめた当初、金融関係の業種を第二志望に動いていたのですが、エントリーシートは通過しない、最終面接までいっても落とされるという状況が続き、一時期かなりモチベーションが低下した時がありました。その時は考えもネガティブ思考になり、行動力も低下し、就職活動をまったくせず家に閉じこもっていた時期もありました。

就職活動を再開した後は、家の事情もあり、地元山口県でのUターン就職を考えていました。そんな時に、地元にある梨農家での農業ボランティアを体験する機会があり、農家の人たちが抱えている

不安や農業行政の現実を目のあたりにし、何らかの形で地元貢献できないかという気持ちを持つようになり、今回就職が決定した山口宇部農業協同組合への応募を決めました。

いまは就職後のことも考え、幅広く業務をこなせるようファイナンシャルプランナーの資格取得に向け頑張っています。自分に合った就職先を見つけるのは簡単なことではないですが、就職活動をするときはする！休むときは休む！というメリハリをしっかりとつけて就職活動を臨んでください。

厳しさを増す2010年度就職戦線 就職支援サービスを強化！

2010年度の就職戦線はリーマンショックから抜け出せないままの経済環境のもとで、早期化・採用抑制の傾向が引き続き予測されます。就職指導部では、厳しい就職戦線に立ち向かう学生を全面的にサポートするために、新たに文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」に採択された学生支援推進プログラムを追加しました。就職活動での様々な相談や悩み、具体的な企業情報の提供など、皆さんをサポートします。

キャリアカウンセラーアワー(平日12時~16時)

エントリーシート、履歴書、面接、グループディスカッションなど、あらゆる相談にキャリアカウンセラーを採用(常駐)し、いつでも相談に応じることができます。

就活ホットライン

土、日、祝日でも携帯電話、メールでキャリアカウンセラーに相談ができるようになりました。
携帯電話:090-1078-7830
メール:keiho-hotline@docmo.ne.jp

就活ワンポイントレッスン動画版

「グループディスカッションのイメージが分らない」「面接ってどんなもの?」などの疑問点を映像で具体的に解説しています。Nice PortalのI-Naviで閲覧が可能です。

インターネット就職筆記試験対策

インターネットを利用した就職筆記試験対策を無料で受講できます。

海外留学体験記

2009年度海外派遣プログラムのひとつとして、8月から9月にかけて行われた海外語学研修に参加した学生たちから、留学を決意した動機や現地での体験談などについて聞いてみました。在学中に留学を考えている学生の皆さんは、是非参考にしてください。

留学先／韓国(ソウル)
梨花女子大学校
期間／8月2日～22日
岡 泰子さん(法学部4年生)



留学前から韓国という国に興味を持っていたのですが、韓国ドラマを字幕なしに見られるようになったという単純な思いで、今回の語学研修に参加しました。本当は、共学

の大学に行きたかったのですが、4年生で卒業間近ということもあり短期で留学できる梨花女子大学校を選びました。

今回、海外に行くこと自体が初めてだったので、見るもの聞くものすべてがとても新鮮でした。韓国では、誰に道を尋ねても優しく教えてくれ、電車に乗っても男性が席をゆずってくれるなど、人間としての温かみを感じることができました。また、食事も私の好みばかりで、何不自由なく過ごすことができました。いまでは、韓国で過ごした日々や出会った人々すべてが、私の人



梨花女子大学校

生の宝物だと思っています。就職してからでは、長期の留学は困難になると思うので、留学を考えている学生の皆さんには、是非長期での留学をおすすめします。

留学先／ロシア(マジストク)
極東国立総合大学
期間／9月4日～10月1日
児玉進之介さん(法学部3年生)



中学、高校と英語をまじめに勉強しなかったことを後悔していたのと、日本が外国からどのように見られているのかということに興味があり、もっ一度何か新しい語学を学び、留学してみたいという思いを持っていました。そんな時に、海外語学研修のことを知り、他の留学先とは違い、授業料や寮費がかからないロシアの極東国立総合大学に留学し



ロシア極東国立総合大学

ようと決めました。

留学するまでにビザの申請手続などで少しトラブルもあったのですが、ロシアに行つてからは本当にたくさんのお話を学ぶことができました。ロシア語以外にも韓国語や英語を使える人々を目のあたりにし、語学力の重要性をあらためて実感すると同時に、今後の学生生活や社会に出ていく上で良い刺激になりました。自分自身一カ月という留学期間は、本当に短く感じました。できるのであれば、早い時期に語学研修などの短期留学を経験し、そこで物足りなさを感じたら半年や一年間の留学に挑戦してみたいと思います。

トピックス

秋学期交換留学生認証式を挙
行
10月14日(水)、交換留学生18名を迎え入れ、2009年度秋学期交換留学生認証式が挙行されました。

認証式では、藤本学長の歓迎挨拶、藤田八尾市国際交流センター事務局長からの来賓挨拶に続き、学長から交換留学生一人ひとりに認証書が授与されました。

**異文化交流行事で
古都奈良を堪能**

10月17日(土)、総勢52名の留学生・一般学生参加のもと、異文化交流行事が古都奈良で開催されました。

当日は、素麺作りや世界遺産として日本で最初に登録された法隆寺、「古都奈良の文化財」として登録されている東大寺などの世界遺産巡りが行われました。

**地元の小学校・高校を訪問し、
地域・国際交流活動を実施**

11月5日(木)、大阪府立花園高校が実施している国際交

流プログラム「国際理解行事」に、24名の留学生が参加しました。



昨年に続き、2度目の開催となった同行事では、交換留学生による自国紹介のプレゼンテーションやクラスごとに分かれての母国紹介が行われ、互いの交流と国際理解を深める貴重な機会になりました。

また、11月18日(水)には八尾市立中高安小学校で、留学生たちが母国の歌や子供たちの遊びなどについて紹介する「国際理解講座」が開催されました。

経法祭に留学生模擬店を出店

11月7日(土)・8日(日)の2日間、留学生約40名、一般学生約10名が協力し、経法祭に留学生模擬店を出店しました。今年の模擬店では、中国風ゴマ団子や水餃子、韓国風チヂミなどが販売されました。



クラスの学生と記念撮影(右から3人目が牧さん)

海外語学研修では、基本的に月曜日から金曜日まで、毎日9時から12時30分まで授業を行います。週に1・2回は、現地大学主催で近郊見学等のアクティビティが実施されます。

大学でドイツについての授業(地域文化論、ドイツ語文学等)を受け、ドイツという国の文化や歴史に関心を持つようになり、費用や時間的にも負担の少ない短期留学が可能な海外語学研修でのドイツへの留学を選びました。

最大の祭りと言われるオクトーバーフェストの開催と重なっていたので、とても良い体験をすることができました。また、ドイツは古城なども多く点在しており、それらを見て回るだけでもドイツの文化や歴史を肌で感じることもできました。

今回の留学を通じて語学力の向上はもちろん、人との出会いやふれあいを通じて、自身のコミュニケーション能力の醸成を図ることができました。留学は、語学力の向上だけではなく、人として一回りも二回りも大きくしてくれる機会だと思っています。



世界共通のテーマとなっている
環境問題に取り組むことで、
自身の成長を実感しています。

西堀 裕紀さん
(法学部・2年生)

環境問題について真剣に考えるようになりました。

私が、環境活動グループであるECO～∞KEIHOに参加するようになったのは、友人に誘われたのがきっかけでした。それまでは、環境問題についてほとんど関心を持っていませんでした。それより、発展途上国にいる子供たちの命を飢えや病気から守れるような活動に参加したいと考えていました。

しかし、ECO～∞KEIHOの活動、特に本学ふれあい池で保護している絶滅危惧種1A類のニッポンバラタナゴの保全活動に携わる過程で、私たち人間が、いままで奪ってきたあらゆる生物の命の重さを痛感することができました。また、私が感心を持っていた発展途上国の子供たちの命が奪われているという現状についても、環境という問題が大きく関わっているということを認識するようになり、次第に環境問題について関心を持つようになりました。

多様な保全活動に取り組んでいます。

現在、ECO～∞KEIHOは、主に大学のある八尾市・高安地域に密着して、ニッポンバラタナゴの保全活動や高安山森林再生活動などに参加しています。なかでも、年間の活動を通じて最大のイベントである「いきいき八尾環境フェスティバル」(関連記事12頁)には、毎年参加しており、初代代表の松政敦子さん(2009年3月卒・法学部)は、環境シンポジウムのパネラーとして報告をしたこともあります。私も、来年は、ECO～∞KEIHOでの取組について、シンポジウムで報告したいと思っています。

環境保全活動を通じて、たくさんのことを学びました。

自分たちがどのような環境保全活動に取り組むのかは、グループ内で話し合いをして決めるようにしています。互いに意見をぶつけ合うことで、相手を説得するためにはどう言えばよいか、考えながら話をするようになりました。また、ひとつひとつの活動が、何人かでチームを組んだり、学外の関係者と協議を重ねて進めていくので、協調性やコミュニケーションの重要性について学ぶことができました。

これから私が取り組みたいと考えているのは、ペットボトルのキャップのリサイクル活動です。私たちは、ほぼ毎日、ペットボトル飲料を飲んでいますが、裏を返せば、それだけたくさんのゴミを出しているということになります。しかし、ペットボトルのキャップは、ゴミではなく、資源として再利用でき、再資源化事業者に売ることができます。この活動は、ゴミや二酸化炭素の排出量削減に役立つだけでなく、そこで得たお金で発展途上国の子供たちにワクチンを送り、一人でも多くの子供たちの命を守ることができる活動です。

ECO～∞KEIHOの活動に興味・関心のある学生の皆さんは、1号館2階学生会務室に是非一度お越しください。



ふれあい池でデブリ流しの作業を手伝う西堀さん(写真左)